

柏の景気情報（平成20年3月分）

柏商工会議所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
TEL : 04-7162-3305
FAX : 04-7162-3323
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報（平成20年3月分）

○ 調査期間 : 平成20年3月21日 ~ 3月25日

○ 調査対象 : 柏市内111事業所及び組合にヒアリング

＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	111	79	71.2%
建設	19	14	73.7%
製造	26	18	69.2%
卸・小売	43	31	72.1%
サービス	23	16	69.6%

○ 調査方法と調査表 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

DI値 = 1 増加他の回答割合 - 3 減少他の回答割合

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成20年3月の調査結果のポイント】

〈業況DIはわずかながら好転したが、依然としてマイナス40台〉

○3月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲40.5(前月水準▲44.4)となり、マイナス幅が△3.9ポイント縮小した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順にサービス業▲18.7(同▲42.8)、卸小売業▲54.8(同▲61.2)であり、特に、サービス業はマイナス幅が△24.1ポイントと大幅に縮小した。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲22.2(同▲10.5)、建設業▲57.1(同▲52.9)である。

【建設業】では、「4月からまた材料値上げになり厳しさは増す」(一般土木建築工事業)、「ガソリン税暫定税率の期限切れに伴う財源不足で道路整備事業が保留になる恐れ」(土木工事業)、「4月より材料の価格が改訂され業者は採算が悪化する」(電気工事業)といった原材料高騰による厳しい声の他、「ブランドを大いに活用して、電気に移行するのをいかに防ぐか」(家庭用機械器具小売業)といったブランド活用へのコメントが寄せられた。

【製造業】では、「官庁物件の減少」(その他の設備工事業)との公共物件減少のコメントがあった。また、「J-PARC(大強度陽子加速器施設)は世界最高峰の研究拠点。あらゆる分野で可能性を秘める」(その他の化学工業)といったコメントも寄せられている。

【卸小売業】では、「まだまだ続く原材料の値上げが大きく経営に影響」(各種食料品小売業)、「乳製品の値上げ、特にチーズ関係は3割UP」(菓子・パン小売業)「灯油は二年間で倍以上跳ね上がり小額しか値上げできない、とても対応できない大波が業界に押し寄せている」(燃料小売業)といった原材料・原油高騰の影響の声が多く寄せられた。また、「春物初夏物衣料の動きが早い。全品の涼味関連商品も昨年より活発に動いている」(その他の各種商品小売業)といった季節商品による売上増加の声も寄せられたが、「SCの乱立などによる小売業界の競争激化はいつまで続くのか?消費者利益の向上に本当につながるのか」(書籍・文房具小売業)、「近くのスーパーが酒小売免許を取得した為、酒類の落込みがひびいている。米飯等は伸ばしているが全体では売上ダウン」(その他の各種商品小売業)といった先行き不安や売上減少の厳しいコメントも寄せられている。

【サービス業】は、「彼岸ごろからお客様の動きが出てきた。これからはお花見商戦にむけて期待」(食堂・レストラン)といった声の他、「宿泊…スポーツ団体宿泊あり、宴会…宴会売上前年並み、会議展示会不変」(ホテル)との声や、「きびしい状況が続いている中あれこれ模索中」(そば・うどん店)、といった厳しい声も寄せられている。

○原材料高騰

「原料、エネルギーの高騰には、ユーザーにも協力を仰いでいる」との声も寄せられているが、各業種から「物価高騰の関係で先物買いの資金繰りが大変。食材の一部に仕入れ不可能な商品もある」、「原材料高騰があり4月よりメニューの改訂と値上げをする事とした。値上げによる4月の見通しがまったくわからない」といった原材料・原油価格高騰の影響の声が多く寄せられた。

○売上減少

「消費者の購買力が低下している現象があり、野菜の入荷減、単価高となっているが、果実は入荷減、単価安が続いており、トータルで売上減少」といった声や、「文具の小売店、対面販売が苦戦している。見本市に行っても、小売店の購入量が減っている」といった売上減少の声が寄せられた。

○季節商品

卸小売業界において「春のファッションキャンペーンを開催、春物衣料が活発化したことに加え、ホワイトデー商戦も昨年を上回る結果となり、売上高は伸長した」、「陽気の良い日が続く、春物の軽衣料を中心に売れている」といった好影響の声が多く寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
10月	▲22.5	▲15.3	▲5.5	▲40.7	▲15.3
11月	▲31.7	▲23.5	▲23.8	▲40.7	▲35.2
12月	▲27.8	▲35.7	±0.0	▲40.0	▲31.2
1月	▲32.9	▲46.6	▲20.0	▲34.4	▲33.3
2月	▲44.4	▲52.9	▲10.5	▲61.2	▲42.8
3月	▲40.5	▲57.1	▲22.2	▲54.8	▲18.7
見通し	▲31.6	▲35.7	±0.0	▲48.3	▲31.2

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 12.6	▲ 12.6	▲ 32.9	▲ 29.1	▲ 60.7	▲ 49.3	△ 21.5	△ 11.3
建設	▲ 35.7	▲ 35.7	▲ 64.2	▲ 50.0	▲ 78.5	▲ 64.2	△ 14.2	±0.0
製造	▲ 11.1	△ 11.1	▲ 16.6	▲ 27.7	▲ 61.1	▲ 61.1	△ 27.7	△ 33.3
卸・小売	▲ 6.4	▲ 19.3	▲ 29.0	▲ 22.5	▲ 51.6	▲ 41.9	△ 6.4	▲ 6.4
サービス	▲ 6.2	▲ 6.2	▲ 31.2	▲ 25.0	▲ 62.5	▲ 37.5	△ 50.0	△ 31.2

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 40.5	▲ 31.6	▲ 16.4	▲ 12.6
建設	▲ 57.1	▲ 35.7	▲ 21.4	▲ 7.1
製造	▲ 22.2	±0.0	▲ 5.5	±0.0
卸・小売	▲ 54.8	▲ 48.3	▲ 12.9	▲ 9.6
サービス	▲ 18.7	▲ 31.2	▲ 31.2	▲ 37.5

【平成20年3月の業況についての状況】

○ 3月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲40.5(前月水準▲44.4)となり、マイナス幅が△3.9ポイント縮小した。

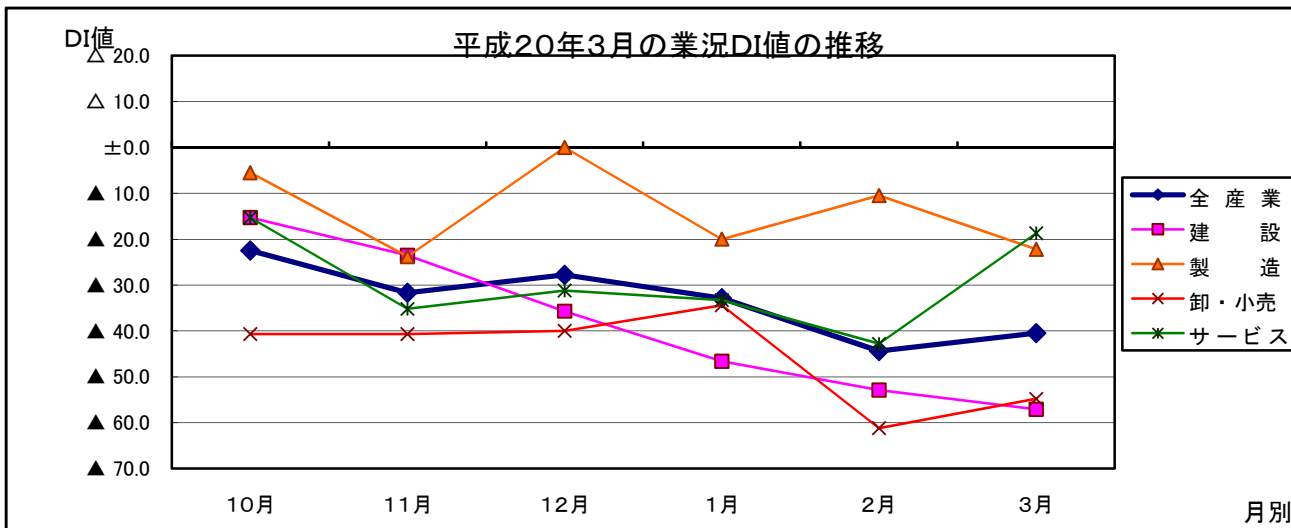
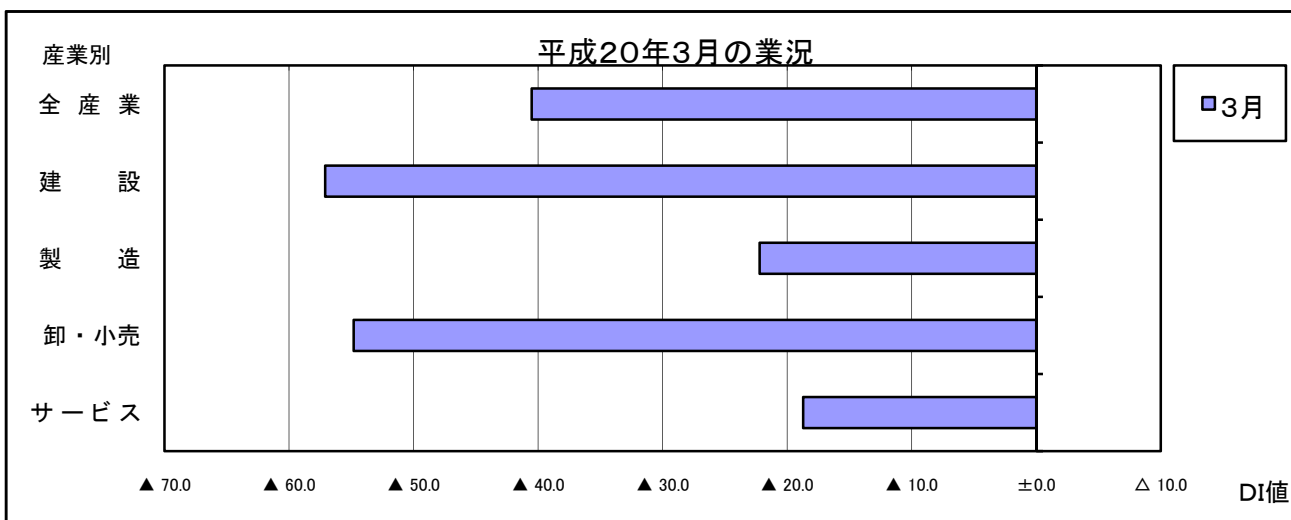
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順にサービス業▲18.7(同▲42.8)、卸小売業▲54.8(同▲61.2)であり、特に、サービス業はマイナス幅が△24.1ポイントと大幅に縮小した。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲22.2(同▲10.5)、建設業▲57.1(同▲52.9)である。

○ 向こう3ヶ月(4月から6月)の先行き見通しについては、全産業では、▲31.6(前月水準▲29.6)となり、マイナス幅が▲2.0ポイント拡大する見通しである

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業±0.0(同▲5.2)、サービス業▲31.2(同▲35.7)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲48.3(同▲41.9)、建設業▲35.7(同▲29.4)である。

平成20年3月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成19年 10月	11月	12月	平成20年 1月	2月	3月	先行き見通し 4月~6月(3月~5月)
全産業	▲22.5	▲31.7	▲27.8	▲32.9	▲44.4	▲40.5	▲31.6(▲29.6)
建設	▲15.3	▲23.5	▲35.7	▲46.6	▲52.9	▲57.1	▲35.7(▲29.4)
製造	▲5.5	▲23.8	±0.0	▲20.0	▲10.5	▲22.2	±0.0(▲5.2)
卸・小売	▲40.7	▲40.7	▲40.0	▲34.4	▲61.2	▲54.8	▲48.3(▲41.9)
サービス	▲15.3	▲35.2	▲31.2	▲33.3	▲42.8	▲18.7	▲31.2(▲35.7)



【平成20年3月の売上についての状況】

○ 3月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲12.6(前月水準29.6)となり、マイナス幅が△17.0ポイント縮小した。

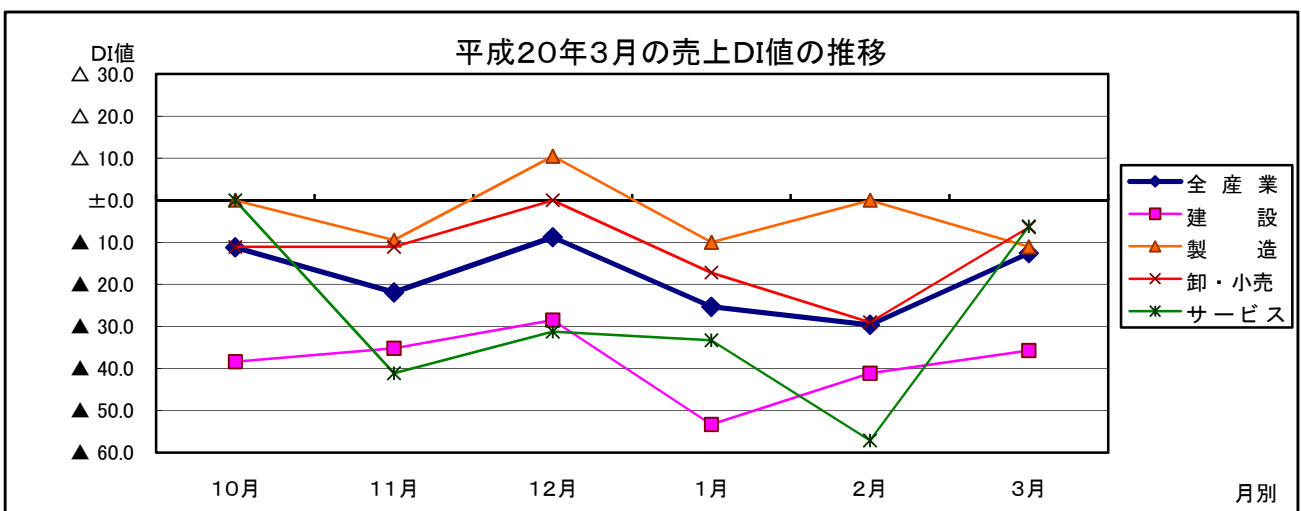
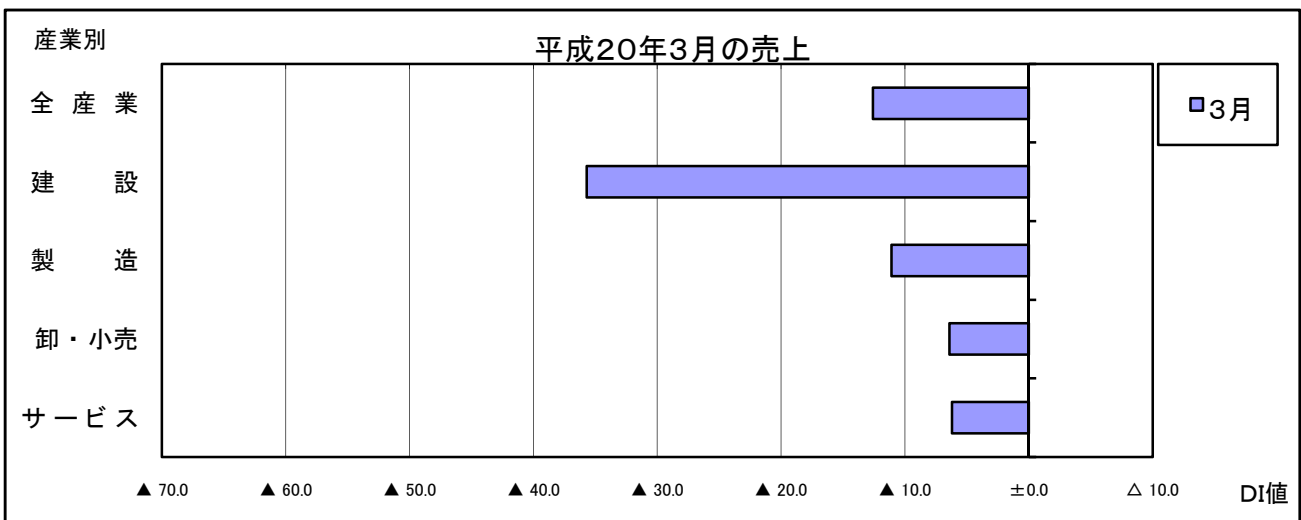
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲6.2(同▲57.1)、卸小売業▲6.4(同▲29.0)、建設業▲35.7(同▲41.1)である。マイナス幅が拡大した業種は、製造業▲11.1(同0.0)である。特にサービス業はマイナス幅が△50.9ポイント、卸小売業はマイナス幅が△22.6ポイントと大幅に縮小した。(20ポイント以上)

○ 向こう3ヶ月(4月から6月)の先行き見通しについては、全産業では、▲12.6(前月水準▲8.6)となり、マイナス幅が▲4.0ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲35.7(同▲47.0)、サービス業▲6.2(同▲14.2)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、製造業△11.1(同△31.5)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲19.3(同▲9.6)である。特に、製造業はプラス幅が▲20.4ポイントと大幅に縮小する見通しである。(20ポイント以上)

平成20年3月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成19年 10月	11月	12月	平成20年 1月	2月	3月	先行き見通し 4月~6月(3月~5月)
全産業	▲11.2	▲21.9	▲8.8	▲25.3	▲29.6	▲12.6	▲12.6(▲8.6)
建設	▲38.4	▲35.2	▲28.5	▲53.3	▲41.1	▲35.7	▲35.7(▲47.0)
製造	±0.0	▲9.5	△10.5	▲10.0	±0.0	▲11.1	△11.1(△31.5)
卸・小売	▲11.1	▲11.1	±0.0	▲17.2	▲29.0	▲6.4	▲19.3(▲9.6)
サービス	±0.0	▲41.1	▲31.2	▲33.3	▲57.1	▲6.2	▲6.2(▲14.2)



【平成20年3月の採算についての状況】

○ 3月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲32.9(前月水準▲54.3)となり、マイナス幅が△21.4ポイント縮小した。

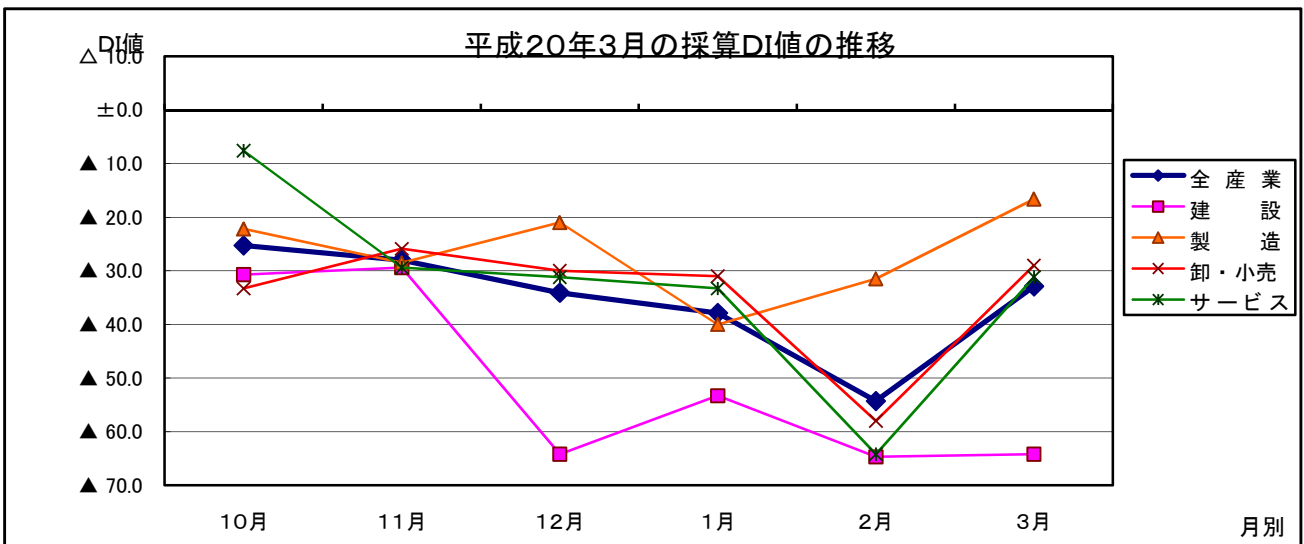
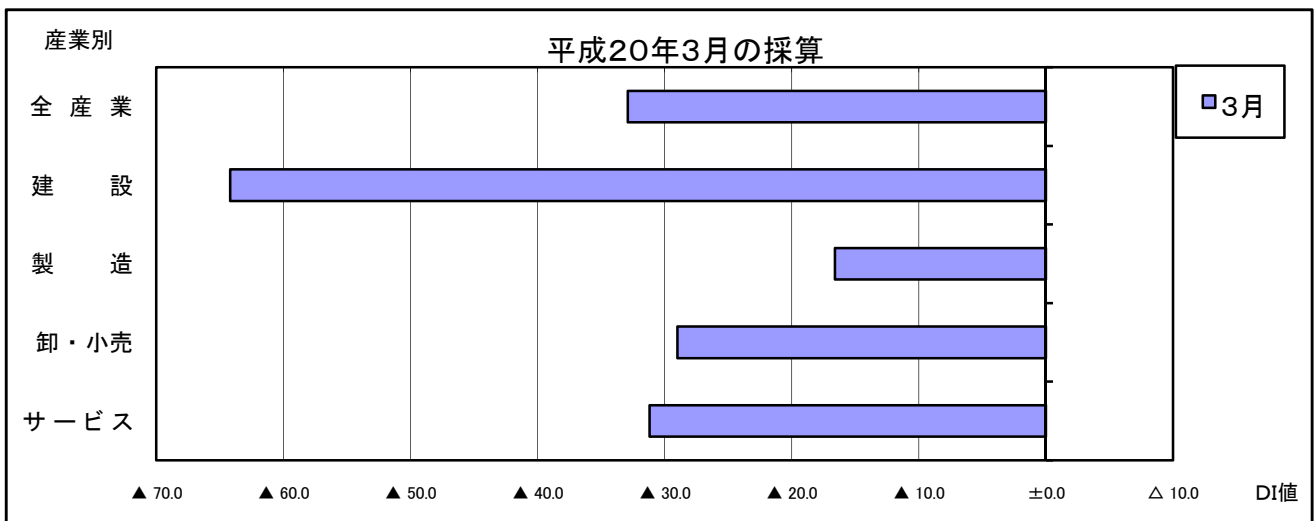
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲31.2(同▲64.2)、卸小売業▲29.0(同▲58.0)、製造業▲6.6(同▲31.5)、建設業▲64.2(同▲64.7)である。特に、サービス業はマイナス幅が△33.0ポイントと大幅に縮小した。(20ポイント以上)

○ 向こう3ヶ月(4月から6月)の先行き見通しについては、全産業では、▲29.1(前月水準▲23.4)となり、マイナス幅が▲5.7ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲22.5(同▲32.2)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、製造業▲27.7(同△5.2)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲50.0(同▲41.1)、サービス業▲25.0(同▲21.4)である。特に、製造業は▲32.9ポイントと大幅に悪化する見通しである。(20ポイント以上)

平成20年3月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成19年 10月	11月	12月	平成20年 1月	2月	3月	先行き見通し 4月～6月(3月～5月)
全産業	▲25.3	▲28.0	▲34.1	▲37.9	▲54.3	▲32.9	▲29.1(▲23.4)
建設	▲30.7	▲29.4	▲64.2	▲53.3	▲64.7	▲64.2	▲50.0(▲41.1)
製造	▲22.2	▲28.5	▲21.0	▲40.0	▲31.5	▲16.6	▲27.7(△5.2)
卸・小売	▲33.3	▲25.9	▲30.0	▲31.0	▲58.0	▲29.0	▲22.5(▲32.2)
サービス	▲7.6	▲29.4	▲31.2	▲33.3	▲64.2	▲31.2	▲25.0(▲21.4)



【平成20年3月の仕入単価についての状況】

○ 3月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲60.7(前月水準▲60.4)となり、マイナス幅が▲0.3ポイント拡大した。

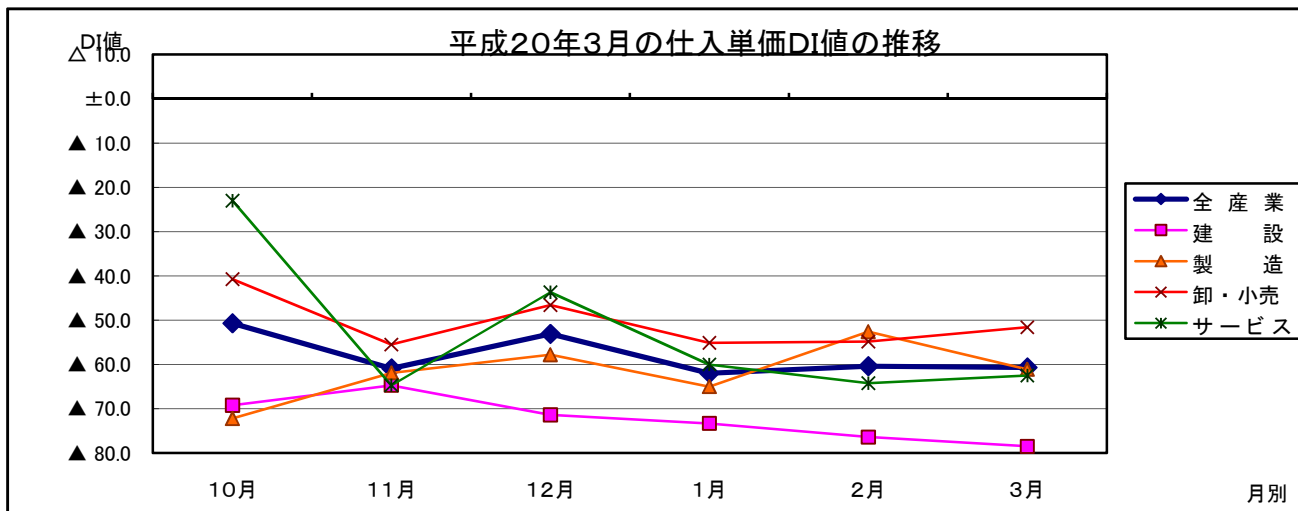
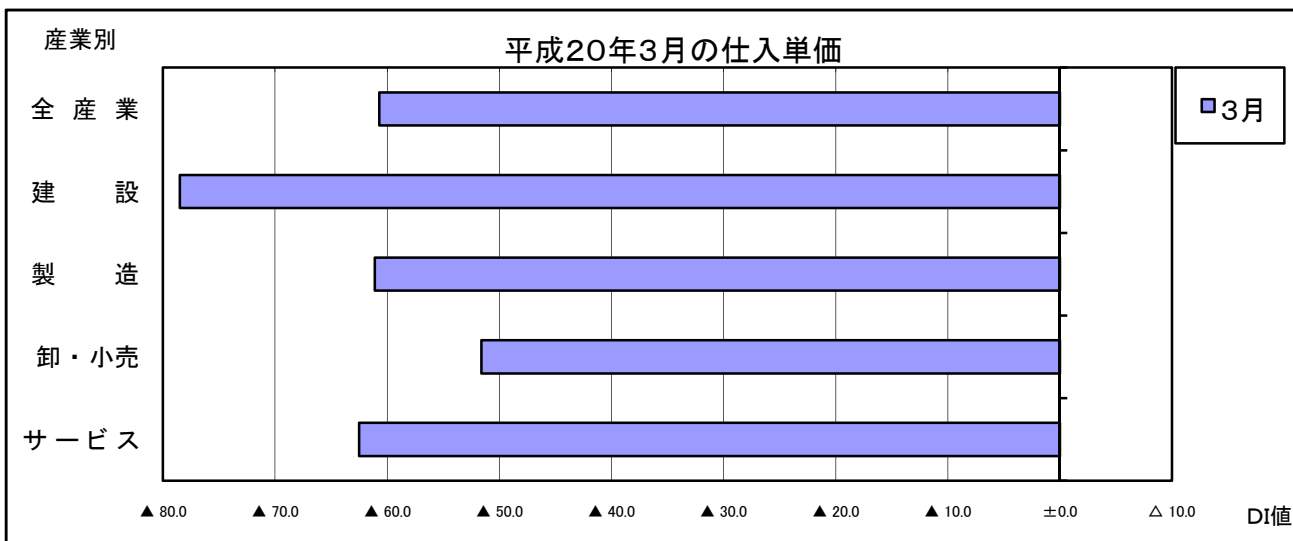
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲51.6(同▲54.8)、サービス業▲62.5(同▲64.2)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲61.1(同▲52.6)、建設業▲78.5(同▲76.4)である。

○ 向こう3ヶ月(4月から6月)の先行き見通しについては、全産業では、▲49.3(前月水準▲54.3)となり、マイナス幅が△5.0ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲37.5(同▲71.4)、卸小売業▲41.9(同▲51.6)、建設業▲64.2(同▲70.5)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、製造業▲61.1(同▲31.5)である。特に、サービス業はマイナス幅が△33.9ポイントと大幅に縮小する見通しである。(20ポイント以上)

平成20年3月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成19年 10月	11月	12月	平成20年 1月	2月	3月	先行き見通し 4月~6月(3月~5月)
全産業	▲50.7	▲60.9	▲53.1	▲62.0	▲60.4	▲60.7	▲49.3(▲54.3)
建設	▲69.2	▲64.7	▲71.4	▲73.3	▲76.4	▲78.5	▲64.2(▲70.5)
製造	▲72.2	▲61.9	▲57.8	▲65.0	▲52.6	▲61.1	▲61.1(▲31.5)
卸・小売	▲40.7	▲55.5	▲46.6	▲55.1	▲54.8	▲51.6	▲41.9(▲51.6)
サービス	▲23.0	▲64.7	▲43.7	▲60.0	▲64.2	▲62.5	▲37.5(▲71.4)



【平成20年3月の従業員についての状況】

○ 3月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△21.5(前月水準△12.3)となり、プラス幅が△9.2ポイント拡大した。

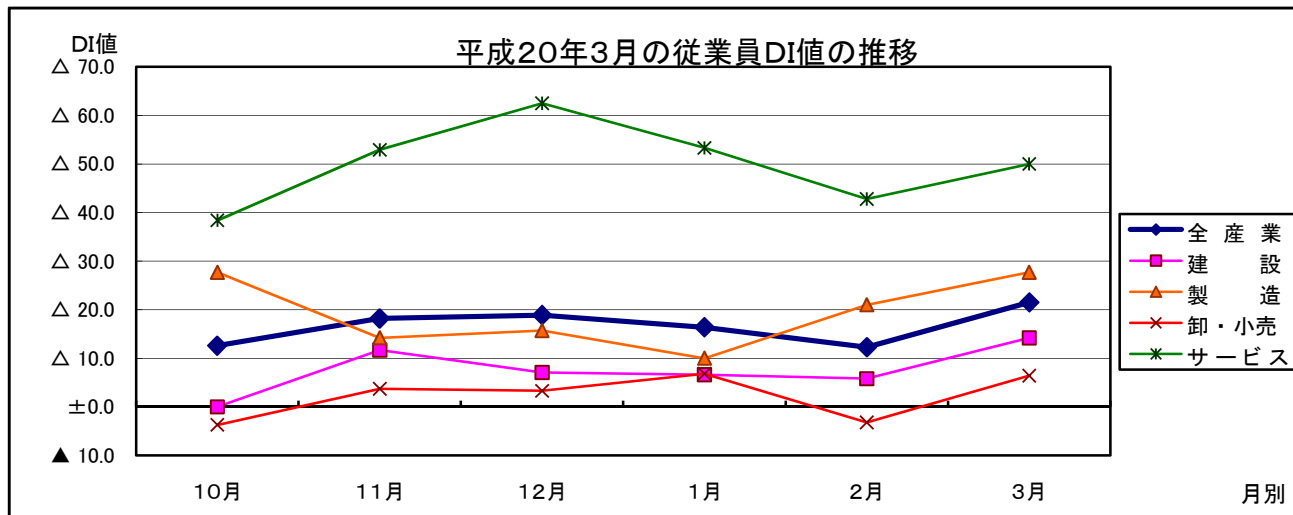
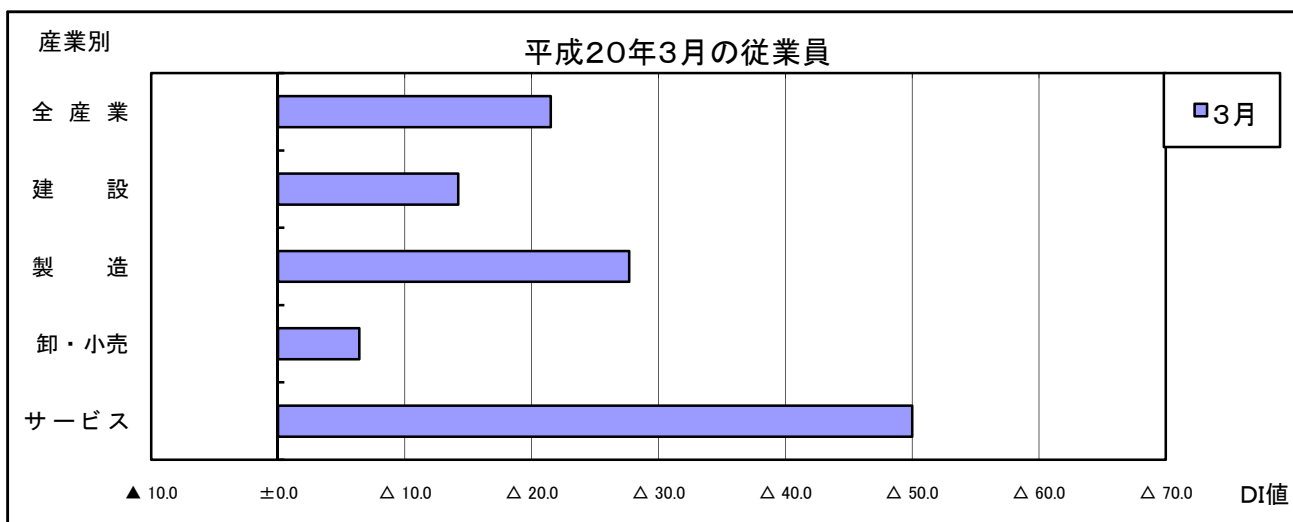
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業△14.2(同△5.8)、サービス業△50.0(同△42.8)、製造業△27.7(同△21.0)である。マイナスからプラスに転じた業種は、卸小売業△6.4(同▲3.2)である。

○ 向こう3ヶ月(4月から6月)の先行き見通しについては、全産業では、△11.3(前月水準△13.5)となり、プラス幅が▲2.2ポイント縮小する見通し

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、製造業△33.3(同△21.0)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、建設業▲±0.0(同▲5.8)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業△31.2(同△50.0)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、卸小売業▲6.4(同△3.2)である。

平成20年3月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成19年 10月	11月	12月	平成20年 1月	2月	3月	先行き見通し 4月～6月(3月～5月)
全産業	△12.6	△18.2	△18.9	△16.4	△12.3	△21.5	△11.3(△13.5)
建設	±0.0	△11.7	△7.1	△6.6	△5.8	△14.2	±0.0(▲5.8)
製造	△27.7	△14.2	△15.7	△10.0	△21.0	△27.7	△33.3(△21.0)
卸・小売	▲3.7	△3.7	△3.3	△6.8	▲3.2	△6.4	▲6.4(△3.2)
サービス	△38.4	△52.9	△62.5	△53.3	△42.8	△50.0	△31.2(△50.0)



【平成20年3月の資金繰りについての状況】

○ 3月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲16.4(前月水準▲24.6)となり、マイナス幅が△8.2ポイント縮小した。

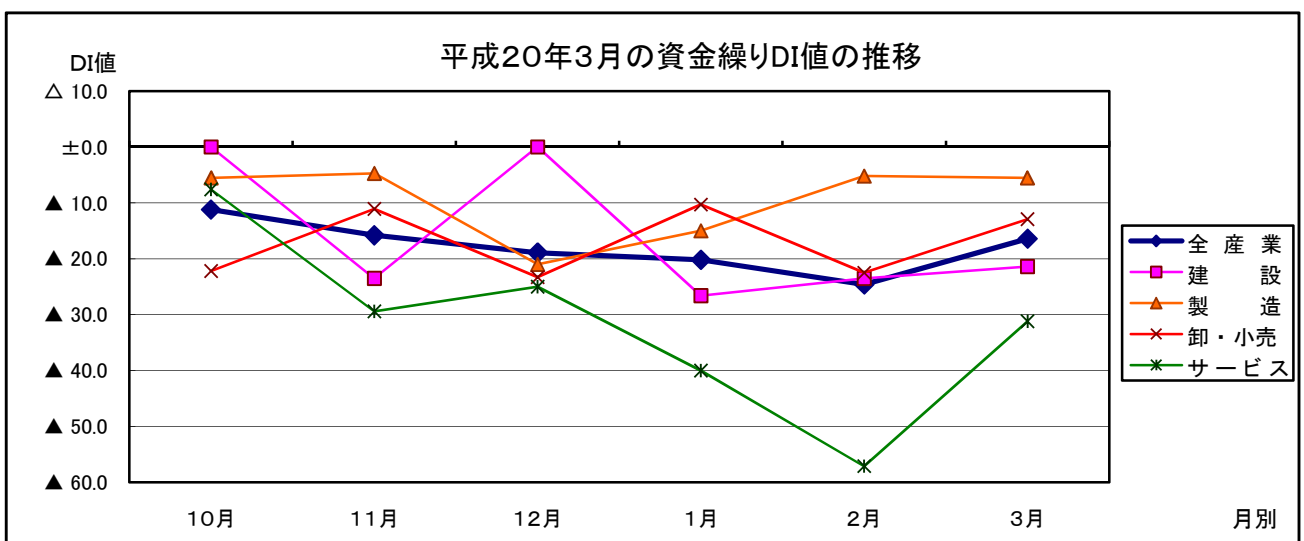
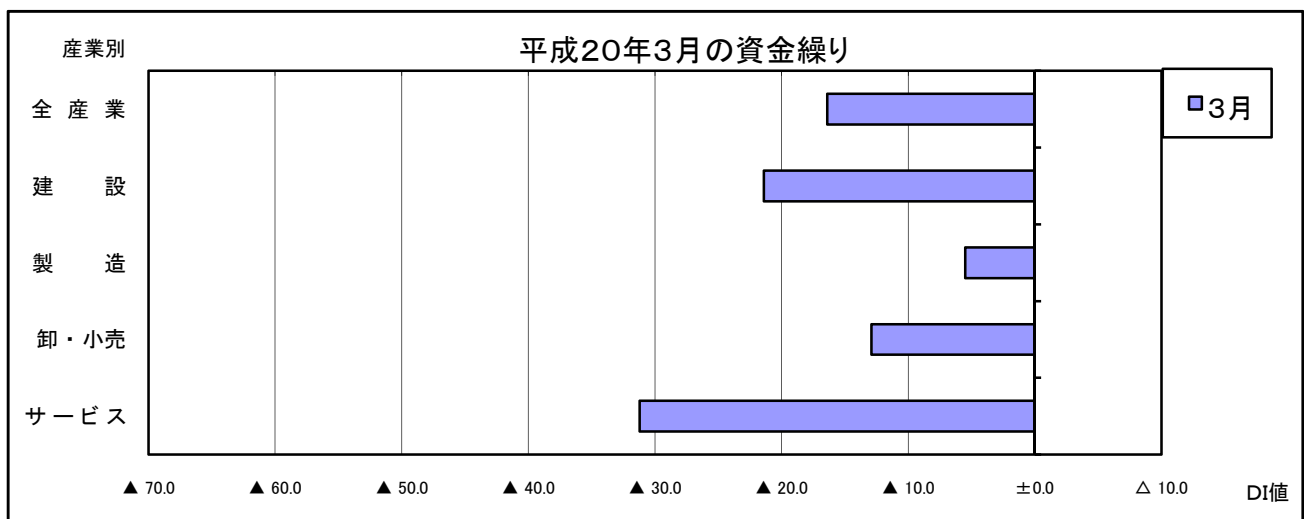
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲31.2(同▲57.1)、卸小売業▲12.9(同▲22.5)、建設業▲21.4(同▲23.5)である。マイナス幅が拡大した業種は、製造業▲5.5(同▲5.2)である。

○ 向こう3ヶ月(4月から6月)の先行き見通しについては、全産業では、▲12.6(前月水準▲11.1)となり、マイナス幅が▲1.5ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲9.6(同▲12.9)である。変らない見通しの業種は、製造業±0.0(同±0.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業▲37.5(同▲28.5)、建設業▲7.1(同▲5.8)である。

平成20年3月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成19年 10月	11月	12月	平成20年 1月	2月	3月	先行き見通し 4月～6月(3月～5月)
全産業	▲11.2	▲15.8	▲18.9	▲20.2	▲24.6	▲16.4	▲12.6(▲11.1)
建設	±0.0	▲23.5	±0.0	▲26.6	▲23.5	▲21.4	▲7.1(▲5.8)
製造	▲5.5	▲4.7	▲21.0	▲15.0	▲5.2	▲5.5	±0.0(±0.0)
卸・小売	▲22.2	▲11.1	▲23.3	▲10.3	▲22.5	▲12.9	▲9.6(▲12.9)
サービス	▲7.6	▲29.4	▲25.0	▲40.0	▲57.1	▲31.2	▲37.5(▲28.5)



【平成20年3月の業種別業界内トピックス】

産業別	概況		業種
建設	新年度事業は動き始めているが、4月からまた材料値上げになり厳しさは増す	原材料高騰	一般土木建築工事業
	ガソリン税の暫定税率が期限切れに伴う財源不足で道路整備事業が保留になる恐れがある	ガソリン税の暫定税率 道路整備事業保留	土木工事業(舗装、しゅんせつを除く)
	京葉ガスブランドを大いに活用して、電気に移行するのをいかに防ぐか、ガス業界全体の問題です	ブランド活用	家庭用機械器具小売業
	普遍＝あいかわらずということで、4月より材料の価格が改訂され(メーカーの)業者は採算が悪化すると思われる	材料価格改訂 採算悪化	電気工事業
製造	原料、エネルギーの高騰には、ユーザーにも協力を仰いでいる	原材料高騰	その他の鉄鋼業
	官庁物件の減少	公共物件減少	その他の設備工事業
	今年12月に供用開始予定のJ-PARC(大強度陽子加速器施設)は世界最高峰の研究拠点。がんやアルツハイマーなど難病治療薬の開発や、コンピュータメモリー高度化など、あらゆる分野で可能性を秘める	大強度陽子加速器施設	その他の化学工業
卸小売	中国産の食品問題はまだまだ尾を引いています。	中国産食品問題	食料・飲料卸売業
	季節要因により、今月の売上高・利益は増加していますが、前期と比べると環境は厳しくなっています。わずかに、中国製冷凍食品の問題に端を発生し、百貨店に対しては「安心安全」面からの信頼をいただいている点が追い風かと思われます。	前年比利益増 中国産食品問題	百貨店
	天候与件の影響(昨年より気温高い)により、春物初夏物衣料の動きが早いようです。全品の涼味関連商品も昨年より活発に動いています。	天候の影響 季節商品	その他の各種商品小売業(従業者が常時50人未満のもの)
	昨年の3月におおたかの森SCがオープンし大きなマイナスの影響があったため、その分今年は売上が回復した。しかし、これからまだまだ続く原材料の値上げが大きく経営に影響してくると思われる	大型SC開業の影響 売上回復 原材料高騰	各種食料品小売業
	昨今は経済不安定で原油高騰の影響により、消費者の購買力が低下している現象があり、野菜の入荷減、単価高となっています(中国ギョーザの影響か)果実は入荷減、単価安が続いており、トータルで売上減少となっています。地元においてキャンパス駅前のマンション入居する情報もあり、消費の期待を持ちたいが、先行き不透明で、このような状況が続くものと予想されます	原油高騰 購買意欲の減退 売上減少 先行き不透明	食料・飲料卸売業
	昨年7月近くのスーパーが酒小売免許を取得した為、酒類の落込みがひびいている。米飯等は伸ばしているが全体では売上ダウン、パートアルバイトは応募が来ており好転している。	競合スーパー酒小売免許取得 売上減少 人手好調	その他の各種商品小売業(従業者が常時50人未満のもの)
	乳製品の値上げが痛い。特にチーズ関係は3割UP。	乳製品値上げ	菓子・パン小売業
	物価高騰の関係で先物買い(仕入れ)で資金繰りが大変!買占めか?売り惜しみか?食材の一部(乳製品等)に仕入れ不可能な商品もある。また食材の高騰を販売価格に転嫁できないため当面厳しい状況が続くと思われる	原材料高騰 資金繰り 価格転嫁	その他の飲食料品小売業
	原油高騰のため	原油高騰	燃料小売業(ガソリンスタンド含まず)
	灯油は値上がりしたがプロパンガス輸入価格高値更新は一応止まった。二年間で倍以上跳ね上がり小額しか値上げできない、とても対応できない大波が業界に押し寄せている。同業者の合言葉。この先何時まで維持できるのかと10年前までを思いいずの話のみ。わびしさは時代の流れで	原油高騰 価格転嫁	燃料小売業(ガソリンスタンド含まず)

【平成20年3月の業種別業界内トピックス】

	SCの乱立などによる小売業界の競争激化(つぶしあい)はいつまで続くのでしょうか？消費者利益の向上に本当につながるのでしょうか？政治(政治家)不信、官僚不信、などなど将来に対する不安が少しずつでも解消していかない限り、日本(日本経済)は維持できないでしょう	小売り競争激化 先行き不安	書籍・文房具小売業
	陽気の良い日が続き、春物の軽衣料を中心に売れている	天候の影響 季節商品	その他の各種商品小売業(従業者が常時50人未満のもの)
	3月度月初は1月末より改装休業していた店舗が12区画あったものの、リニューアル効果(2月後半に7店舗、3/1に2店舗オープン)により、売上高は前年を上回る出足となった。 3/5からは春のファッションキャンペーン「トキメキSpring KireiWeek」を開催、春物衣料が活発化したことに加え、中旬のホワイトデー商戦も昨年を上回る結果となり、売上高は更に伸長した。 後半、春休みに入り集客が増えることから、接客を強化し売上に繋げていく。	店舗リニューアル 売上増加 季節商品	各種商品小売業
	文具の小売店(対面販売)が苦戦している。見本市に行っても、小売店の購入量が減っている。消費者(ユーザー)は文具をどこで買っているのか？子供達は文具を買わなくなっている。書籍も同様らしい。原因は携帯におこづかいをつぎこんでいるのだ	売上減少	書籍・文房具小売業
サービス	彼岸ごろからお客様の動きが出てきたようだ。これからはお花見商戦にむけて期待して行きたい	お花見商戦	食堂・レストラン
	宿泊…スポーツ団体宿泊あり、宴会…宴会売上前年並み、会議展示会不変	宴会前年並 会議・展示会不変	ホテル
	きびしい状況が続いている中あれこれ模索中です	厳しい業況	そば・うどん店
	最悪の2月がすぎ反転3月好調であった。宴会予約が少し増えた。しかし原材料高騰があり4月よりメニューの改訂とアルコール類の値上げをする事とした。売値値上げによる4月の見通しがまったくわからない。しかし値段をあげるしかないので…	宴会予約増 原材料高騰 価格改訂 先行き不透明	酒場・ビヤホール
	諸物価上昇により医療器材の価格上昇も少しずつ出始めている	物価上昇	獣医業

【平成20年3月の多い景気キーワード】

◎原材料高騰

- ・ 新年度事業は動き始めているが、4月からまた材料値上げになり厳しさは増 (建設業)
- ・ 原料、エネルギーの高騰には、ユーザーにも協力を仰いでいる (製造業)
- ・ これからまだまだ続く原材料の値上げが大きく経営に影響してくると思われ (卸小売業)
- ・ 乳製品の値上げが痛い。特にチーズ関係は3割UP。 (卸小売業)
- ・ 物価高騰の関係で先物買い(仕入れ)で資金繰りが大変！買占めか？売り惜しみか？食材の一部(乳製品等)に仕入れ不可能な商品もある。 (卸小売業)
- ・ 原材料高騰があり4月よりメニューの改訂とアルコール類の値上げをする事とした。売値値上げによる4月の見通しがまったくわからない。しかし値段をあげるしかない (サービス業)

◎売上減少

- ・ 消費者の購買力が低下している現象があり、野菜の入荷減、単価高となっていますが(中国ギョーザの影響か)果実は入荷減、単価安が続いており、トータルで売上減少となっています。 (卸小売業)
- ・ 昨年7月近くのスーパーが酒小売免許を取得した為、酒類の落込みがひびいている。米飯等は伸ばしているが全体では売上ダウン (卸小売業)
- ・ 文具の小売店(対面販売)が苦戦している。見本市に行っても、小売店の購入量が減っている。消費者(ユーザー)は文具をどこで買っているのか？子供達は文具を買わなくなっている。 (卸小売業)

◎季節商品

- ・ 天候与件の影響(昨年より気温高い)により、春物初夏物衣料の動きが早いようです。全品の涼味関連商品も昨年より活発に動いています。 (卸小売業)
- ・ 陽気の良い日が続き、春物の軽衣料を中心に売れている (卸小売業)
- ・ 春物衣料が活発化したことに加え、中旬のホワイトデー商戦も昨年を上回る結果となり、売上高は更に伸長した。後半、春休みに入り集客が増えることから、接客を強化し売上に繋げていく。 (卸小売業)









平成20年3月のCCI - LOBOとの比較











- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲40.5に対し、「CCI-LOBO」が▲46.9で、マイナス幅が6.4ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業・サービス業で、10ポイント以上良い業種は製造業・サービス業。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲12.6に対し、「CCI-LOBO」が▲30.1で、マイナス幅が17.5ポイント小さい。「柏の景気」の方が全ての業種で良くなっており、10ポイント以上良い業種は、建設業・卸小売業・サービス業。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲32.9に対し、「CCI-LOBO」が▲42.8で、マイナス幅が9.9ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、製造業・卸小売業・サービス業で、10ポイント以上良い業種は、製造業。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲60.7に対し、「CCI-LOBO」が▲51.6で、マイナス幅が9.1ポイント大きい。「柏の景気」の方が全ての業種で悪くなっており、10ポイント以上悪い業種は、建設業・サービス業。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が△21.5に対し、「CCI-LOBO」が▲3.8で、プラス幅が25.3ポイント大きい。「柏の景気」の方が全ての業種で良くなっており、10ポイント以上良い業種は、建設業・製造業・サービス業。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲16.4に対し、「CCI-LOBO」が▲28.4で、マイナス幅が12.0ポイント小さい。「柏の景気」の方が10ポイント以上良い業種は、建設業・製造業・卸小売業。「柏の景気」の方が悪い業種は、サービス業。




平成20年3月の柏の景気天気図











柏の景気情報と全国CCI LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI 50	好調 50>DI 25	まあまあ 25>DI 0	不振 0>DI 25	極めて不振 25>DI











業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 40.5	 57.1	 22.2	 54.8	 18.7
CCI LOBO	 46.9	 59.4	 41.3	 48.4	 43.3

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 12.6	 35.7	 11.1	 6.4	 6.2
CCI LOBO	 30.1	 53.0	 19.5	 26.8	 31.5

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 32.9	 64.2	 16.6	 29.0	 31.2
CCI LOBO	 42.8	 62.8	 42.1	 34.2	 41.1

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 60.7	 78.5	 61.1	 51.6	 62.5
CCI LOBO	 51.6	 59.2	 60.5	 42.7	 49.7

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 21.5	 14.2	 27.7	 6.4	 50.0
CCI LOBO	 3.8	 22.2	 2.0	 3.9	 2.5

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 16.4	 21.4	 5.5	 12.9	 31.2
CCI LOBO	 28.4	 46.3	 25.3	 25.5	 26.9

は「柏の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

は「柏の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

柏の景気情報

(3月の調査結果のポイント)

調査期間：平成20年3月21日～25日

調査対象：柏市内111事業所及び組合にヒアリング、回答数79

柏の景気情報・産業別業況D I

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
10月	22.5	15.3	5.5	40.7	15.3
11月	31.7	23.5	23.8	40.7	35.2
12月	27.8	35.7	±0.0	40.0	31.2
1月	32.9	46.6	20.0	34.4	33.3
2月	44.4	52.9	10.5	61.2	42.8
3月	40.5	57.1	22.2	54.8	18.7
見通し	31.6	35.7	±0.0	48.3	31.2

「見通し」は今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しD I

柏市の業況

業況D Iはわずかながら好転したが、依然としてマイナス40台

3月の全産業合計のD I値(前年同月比ベース、以下同じ)は、四〇・五(前月水準四四・四)となり、マイナス幅が三・九ポイント縮小した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順にサービス業 一八・七(同) 四一・八(卸小売業 五四・八(同) 六一・二)であり、特に、サービス業はマイナス幅が二四・一ポイントと大幅に縮小した。マイナス幅が拡大した

業種は、幅の大きい順に、製造業 二二・二(同) 一〇・五、建設業 五七・一(同) 五一・九である。

【建設業】では、「4月からまた材料値上げになり厳しいは増す」(一般土木建築事業)、「ガソリン税暫定税率の期限切れに伴う財源不足で道路整備事業が保留になる恐れ」(土木事業)、「4月より材料の価格が改訂され業者は採算が悪化する」(電気事業)といった原材料高騰による厳しい声の他、「ブランドを大いに活用して、電気に移行するのをいかに防ぐか」(家庭用機械器具小売業)といったブランド活用へのコメントが寄せられた。

【製造業】では、「官庁物件の減少」(その他の設備工事業)との公共物件減少のコメントがあつた。また、「J・P A R C(大強度陽子加速器施設)は世界最高峰の研究拠点。あらゆる分野で可能性を秘める」(その他の化学工業)といったコメントも寄せられている。

【卸小売業】では、「まだまだ続く原材料の値上げが大きく経営に影響」(各種食料品卸小売業)、「乳製品の値上げ、特にチーズ関係は3割UP」(菓子・パン小売業)、「灯油は一年間で倍以上跳ね上がり小額しか

値上げできない、とても対応できない大波が業界に押し寄せられている」(燃料小売業)といった原材料・原油高騰の影響の声が多く寄せられた。また、「春物初夏物衣料の動きが早い。全品の涼味関連商品も昨年より活発に動いている」(その他の各種商品小売業)といった季節商品による売上増加の声も寄せられたが、「SCCの乱立などによる小売業界の競争激化はいつまで続くのか?消費者利益の向上に本当につながるのか」(書籍・文具具小売業)、「近くのスーパーが酒小売免許を取得した為、酒類の落込みがひびいている。米飯等は伸ばしているが全体では売上ダウン」(その他の各種商品小売業)といった先行き不安や売上減少の厳しいコメントも寄せられている。

【サービス業】は、「彼岸こちらからお客様の動きが出てきた。これからはお花見商戦にむけて期待」(食卓・レストラン)といった声の他、「宿泊…スボーツ団体宿泊あり、宴会…宴会売上前年並み、会議展示会不変」(ホテル)との声や、「きびしい状況が続いている中あれこれ模索中」(そば・うどん店)といった厳しい声も寄せられている。

【卸小売業】は、「春のファッションキャンペーンを開催、春物衣料が活発化したことに加え、ホワイトデー商戦も昨年を上回る結果となり、売上高は伸長した」、「陽気の良い日が続く、春物の軽

原材料高騰

「原料 エネルギーの高騰には、ユーザーにも協力を仰いでいる」との声も寄せられているが、各業種から「物価高騰の関係で先物買いの資金繰りが大変。食材の一部に仕入れ不可能な商品もある」、「原材料高騰があり4月よりメニューの改訂と値上げをする事とした。値上げによる4月の見通しがまったくわからない」といった原材料・原油価格高騰の影響の声が多く寄せられた。

売上減少

「消費者の購買力が低下している現象があり、野菜の入荷減、単価高となっているが、果実は入荷減、単価安が続いており、トータルで売上減少」といった声や、「文具の小売店 対面販売が苦戦している。見本市に行っても、小売店の購入量が減っている」といった売上減少の声が寄せられた。

季節商品

卸小売業界において「春のファッションキャンペーンを開催、春物衣料が活発化したことに加え、ホワイトデー商戦も昨年を上回る結果となり、売上高は伸長した」、「陽気の良い日が続く、春物の軽

衣料を中心に売れている」といった好影響の声が多く寄せられた。

CCI・LOBOの比較

全産業合計では、「柏の景気」が四〇・五に対し、「CCI LOBO」が四六・九で、マイナス幅が六・四ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業・サービス業で、一〇ポイント以上良い業種は製造業・サービス業。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業。

三月の景気キーワード

CCI - LOBO

商工会議所早期景気観測 (3月速報)

調査期間：平成20年3月17日～24日

調査対象：全国の407商工会議所が2578業種組合等にヒアリング調査を実施。

全国の業況

業況は引き続き厳しい状況
仕入単価DIは最悪値を更に
新

3月の景況をみると、全産業合計の業況DI(前年同月比)は、以下同じ)は、大幅に悪化した1月(47.9)以降はほぼ横ばいで、今月も46.9と厳しい水準となった。

産業別の業況DIは、建設製造でマイナス幅がわずかに拡大し、サービス、小売は横ばい、卸売は縮小した。なお、卸売は約1.0ポイント改善しているものの、この主因は1、2月の大幅なマイナスからの反動等と思われる。

【建設業】「公共工事・民間工事ともに受注が減少し、厳しい状況」(一般工事業)、「依然として建築資材の値上がりが続いており、採算がさらに悪化」(一般工事業)、「受注件数の減少に伴う同業者間の競争激化により、売上が大幅に悪化」(土木工事業)、「改正建築基準法の影響は和らいできているものの、従前に比べて工事着工は遅れている」(一般工事業)

【製造業】「受注は堅調だが、コストダウン要請が続く、収益面では厳しい状況」(自動車・附属品製造業)、「業況が回復せず厳しい状況が続く、従業員

も過剰状態」(金属加工機械製造業)、「仕入価格の上昇分を納入価格に転嫁できず、深刻な状況」(通信機器器具製造業)といった窮状を訴える声が多く寄せられている。ただし、中には、鉄鋼や工作機械関連の受注は、比較的順調に推移」(金属加工機械製造業)など、一部の業種からは改善の声も聞かれる。

【卸売業】「石油関連製品の高騰に加え、食品原材料や鉄鋼製品の値上げが予定されており、採算への悪影響を懸念」(各種商品卸売業)、「売上の減少が続くなど、依然として厳しい状況」(衣服・日用品卸売業)、「原油価格の高騰に伴い、運送費や梱包資材の経費が増大し、採算が大幅に悪化」(他の卸売業)

【小売業】「来客数は前年と同程度も、一人当たりの購入単価は減少」(商店街)、「食料日用品価格高騰の影響により、個人消費が減少し、売上が悪化」(商店街)などの厳しい状況を訴える声が多く寄せられている。ただし、中には、今月中旬から気温が上昇し、春物衣料の動きが活発化」(百貨店)という声も複数見られる。

【サービス業】「原油価格の高騰に伴う仕入価格の上昇に加え、アルコール類の値上げも実

施され、採算がさらに悪化」(食堂・レストラン)、「軽油価格の上昇分を運賃に転嫁できず、厳しい状況」(運送業)、「競合ホテルの進出により競争が激化し、売上が悪化」(旅館)

三月のキーワード

更なる悪化への懸念
各業種から業況の悪化と先行きへの懸念を訴える声が多く寄せられている。建設からは、

「鉄、金属、アルミなどの資源価格の高騰から、建設・資材製品が再値上げされ、新たなコスト負担を懸念」(静岡・一般工事業)、「4月以降も仕入価格の高騰が予想され、採算が悪化する見込み」(横須賀・土木工事業)との声が多く寄せられている。また、小売、サービスからも、「小麦の値上げに加え、今後もパン、カップ麺類等の再値上げが予定されており、売上の悪化を懸念」(新井・百貨店)、「食料品の値上げが続いており、来客数・売上の更なる減少が見込まれ厳しい状況」(桐生・その他の小売業)といったコメントが寄せられている。

仕入コストの上昇

各業種から、原材料価格の高騰による仕入コストの上昇を訴える声が多く寄せられている。製造からは、「原材料、燃料などの諸経費が増加傾向にあり、採算の悪化を懸念」(宇都宮・パ

ン・菓子製造業)、「急な材料価格の値上がりに対し、売上は減少が続く、厳しい状況」(加茂・金属加工機械製造業)との声が多く寄せられている。また、小売、サービスからも、「売上は多少増加するも、仕入価格の上昇により採算は悪化」(廿日市・商店街)、「期末に向け売上は増加傾向だが、納品価格等の上昇により採算面は悪化」(名古屋・ソフトウェア)といったコメントが寄せられている。

急激な円高に対する不安

今月は最近の急激な円高に伴う先行きに対する不安や、収益面での悪影響を訴える声も寄せられている。サービス業からは、「輸出関連企業を得意先とするため、先行きに大きな不安を感じる」(上田・ソフトウェア)、「急激な円高の影響による、外国人観光客の減少を懸念」(京都・旅館)とのコメントが寄せられている。

また、輸出関連の製造業からも、「急速な円高が収益減少の要因となっている」(金沢・金属製品製造業)、「円高による企業経営への悪影響を懸念」(相模原・金属加工機械業)といった声が多く寄せられている。

全国・産業別業況DIの推移

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
10月	▲34.9	▲47.2	▲27.0	▲44.3	▲33.8	▲33.0
11月	▲36.1	▲46.8	▲29.2	▲45.6	▲36.0	▲32.6
12月	▲40.8	▲57.3	▲34.9	▲44.9	▲39.0	▲37.1
1月	▲47.9	▲58.1	▲40.4	▲55.6	▲49.2	▲44.5
2月	47.5	57.7	40.3	57.7	49.1	42.7
3月	▲46.9	▲59.4	▲41.3	▲47.3	▲48.4	▲43.3
見通し	▲43.1	▲61.8	▲41.1	▲36.7	▲41.6	▲38.0

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI